

課題レポート3

八田與一について

私は、八田與一について全く知らず授業のビデオで初めて知りました。なので、農業開発に携わる場合に心がけることの前に八田與一についてまず調べたのでまとめます。

八田與一さんは1886年に金沢で生まれ東大の土木工学を卒業し24歳の時台湾で土木関係の技手を務めていました。初めは衛生工事を担当していましたが28歳の時から水利事業を担当、設計工事の第一人者として認められるようになった。56歳で亡くなるまでほぼ全生涯を台湾で過ごし、台湾のために尽くした人です。有名な事業としてビデオでもあげられた烏山頭ダム建設があり、このダムは昭和5年に完成した堰堤長1,273m、高さ56m、貯水量1億5千万トンという巨大なダムで作るにあたって、土台の中心部にだけコンクリートを用い大量の土砂をその上に盛り、水の力を利用して細かな土砂を下に落ち着かせ、土の堰堤を作るというセミハイドロリックフィル法を採用したり、大型土木機械を使用したり、烏山頭に町を作るなど当時としては新しい方法を用いています。このことから、八田與一の有能さをうかがい知ることができます。また、日本人にはあまり知名度がないのですが、八田與一の生家の前にある小学校に八田與一胸像があるなど金沢市今町では有名な人です。(参考 近代日本を支えた偉人たち www.kanazawa-museum.jp)

農業開発において

八田與一の言葉で「烏山頭は大きな工事であり困難も伴い時間もかかる。働く人たちが安心していい仕事ができるために家族が一緒じゃないといけない。」ということばがあります。このことから、八田與一は人と人との関係(特に信頼のできる人との関係)を大切にしていたことが分かります。農業開発を行う時、どんなに才能のある人でも一人では絶対にできません。多くの人の協力があつてこそ成り立つものであり決して開発側のエゴになってはいけないということを強く感じました。また、様々な気配りや人としての考え方ができ、それを実践していたからこそ人情味のある現場責任者として農民に慕われていたのだなと思いました。これらのことからやはり農業開発には、人としての大切なことを守り信頼を築き上げていくことが重要で、相手のことを思いやることを心がけるべきだと思いました。(参考 台湾近代化に尽くした日本人

<http://kukkuri.jp/boyakikukkuri2/log/eid1068.html>)